

～フランス楽派への憧憬～

クラヴサン曲集 第3巻 第13組曲より
「咲きそめる百合」
「葦」

フランソワ・クーブラン(1668～1733) 作曲

バラード 作品19

ガブリエル・フォーレ(1845～1924) 作曲

月の光 「ベルガマスク組曲」より

金色の魚 「映像」第2集より

クロード・ドビュッシー(1862～1918) 作曲

牧歌 「10の絵画風小品」より

ハバネラ

エマニュエル・シャブリエ(1841～1894) 作曲



ピアノ 井上 二葉 (いのうえ ふたば)

シドニー生まれ。ベルリン、ブダペストで音楽を学び、戦争のため帰国。戦後、東京音楽学校(現東京藝術大学)に入学、安川加壽子氏に師事。1953年同研究科修了。4月東京でデビュー。

1957年よりパリで1年間L.レヴィ氏に師事。

1967年にはフランス青少年音楽協会と民音の交換芸術家第1号としてフランスに派遣され、23都市でリサイタルを行った後、パリでV.ペルルミュテール氏に師事。

1974年G.フォーレ歿後50年を記念した連続演奏会で全ピアノ曲を演奏し第5回福山賞受賞。

東京に於て38回自主公演開催。独奏のほか、J.P.ランパル氏など世界的名手との共演も多くこなしている。

エリザベト音楽大学名誉教授。日本演奏連盟、日仏音楽協会各会員。日本フォーレ協会顧問。

～うち震える弦の響き～

練習曲op.25-1 ”エオリアンハーブ“

雨だれの前奏曲
ノクターンop.55-1
フレデリック・ショパン 作曲

アラベスク第1番

クロード・ドビュッシー 作曲

ジムノペディ 第1番
グノシエンヌ 第5番
官僚的なソナチネ

エリック・サティ 作曲

前奏曲op3-2 ”鐘“

セルゲイ・ラフマニノフ 作曲



©Miho KAKUTA

ピアノ 青柳 いつみこ (あおやぎいつみこ)

安川加壽子、ピエール・バルビゼの両氏に師事。
マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。
学術博士。平成2年度文化庁芸術祭賞。
演奏と文筆を兼ね、著作は34点、CDは25枚。
21枚のCDが『レコード芸術』誌特選盤、『翼の生えた指』で吉田秀和賞、『青柳瑞穂の生涯』で日本エッセイストクラブ賞、『6本指のゴルトベルク』で講談社エッセイ賞。
近著に『パリの音楽サロン』(岩波新書)、CDに『19歳のシューベルト』(ALM)。日本演奏連盟、日本ショパン協会理事、大阪音楽大学名誉教授。兵庫県養父市芸術監督。

～懐かしいウィーンでの思い出とともに～

デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲

トルコ行進曲 ピアノ・ソナタ イ長調 K.331より

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト 作曲

楽興の時 D780 作品94より

1番 ハ長調 モデラート

2番 変イ長調 アンダンティーノ

3番 ヘ短調 アレグロ・モデラート

5番 ヘ短調 アレグロ・ヴィヴァーチェ

フランツ・シューベルト 作曲

ルーマニア民俗舞曲 BB68

I.杖踊り II.帯踊り III.踏み踊り

IV.角笛の踊り V.ルーマニア風ポルカ VI.速い踊り

ベラ・バルトーク 作曲



©山田 翔

ピアノ 深沢 亮子 (ふかさわりょうこ)

15歳で日本音楽コンクール首位受賞。

17歳でウィーン国立音楽大学に留学、1959年首席で卒業。

翌年ウィーン楽友協会にて海外デビューリサイタルを開催、絶賛される。

1961年ジュネーブ国際音楽コンクールで最高位受賞。以来ヨーロッパ、南米、アジアの主要都市でリサイタルや室内楽、オーケストラとの協演等国际的に活躍。日本の現代作品を海外へも積極的に紹介する。

国内では毎年リサイタルを開催する他、度々ウィーンのベートーヴェン国際ピアノコンクール、日本音楽コンクール他の審査員、テレビ、ラジオ出演、著書・楽譜の出版、CDリリースなど多方面で活躍する。

2015年にはCD「幻想～Fantasie」が『レコード芸術』誌で特選盤に選ばれる。

日本音楽舞踊会議代表理事。永井 進、G.ヒンターホーファー両教授に師事。